



イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 547 回 目指せ、梁山泊経営！

2013.10.20

“あなたの「看板」を作りなさい！” こんなテーマで「自分磨き」勉強会をやった。今回はその、紙上再現コラムである。

今、あなたに自分の「看板」がありますか？ そんな問いを投げかけてみる。「看板」とは〇〇会社代表取締役××です…という名刺のことではない。

「〇〇の件はあの人なら大丈夫」

「この話は彼に聞くのが一番」

「これに関して、あなたがやってくれるのなら安心できる」

これがあなたの「看板」である。

この看板を持つためには、高度なスキル、豊富な体験、溢れるほどの情報量、強靱なる指導力、絶え間ない努力等々、看板の裏付けになる要素はいくつもあるが、稀有なる得意分野を有する人でなければならないだろう。

もしあなたが、これからこの看板づくりを目指すのであれば、たくさんの看板を持つ必要はない。最も得意とする大きな看板ひとつでいいかもしれない。

看板づくりの究極的目的は、その得意分野を、どう活かすかであり、看板の数を競うことではないはずである。看板を持つ意義は、信頼する人に、最も得意とするノウハウを提供し、安心を与えることである。

これからの中小企業の経営者は、一つでもいいから自らの看板を持つことが肝要と考える。これだけは誰にも負けない…そんな看板が必要となるに違いない。

でも実際は、たった一つの看板で事業経営がうまくいくはずがない。

経営に必要と思われ、自分にはない看板は…、集めればいい、そう思っている。

従業員も少なく、まだまだ小さな会社の社長でも、あなたの周りにはたくさんのブレーンがいる。右腕、左腕のスタッフと、社長が持っているネットワークには、恐ろしいほどの高機能集団がいる。あれがバックにいれば、我々は安心して付き合える。

こんなキラリ光る中小企業を目指すことが、これからの生き残りだろうと考える。

今流に言えば「オープン・イノベーション」、ノウハウ・機能のコラボ連携ということになる。

今回私は、分かり易く**梁山泊経営**(りょうざんぱくけいえい)と言っておく。

今こそ目指せ、「梁山泊経営」…という調子で勉強会は佳境に入る。

* 梁山泊は、かつて中国にあった地名、『水滸伝』の舞台で、「優れた人物たちが集まる場所」という意味でつかわれる。

残念ながら紙上再現「自分磨き」勉強会は、ここまでである。